

人手不足に立ち向かう！

省力化事例

深刻化する人手不足に対し、自動化・効率化を進め、省力化につなげている会員企業の事例を紹介します

case
01



テーマ RPAを活用した業務効率化

目的・きっかけ

「紙資料類からの脱却」を2013年度より推し進めてきた。EXCEL VBA (Visual Basic for Applications) を活用した報告と集計・グループウェアの積極的活用から、電子化されたデータを集計加工することが多くなった。電子化を推進していく過程で発生した問題「集計するデータ量の増加」や「複雑化による集計作業負担の増加」「業務の属人化」を解消するため、RPAを導入した。

導入時の改善計画

RPAを導入する業務の位置づけ・優先業務・統括部署を明確にした。

- 1 RPA化する業務範囲を「電子化した本部定例業務を自動運用」するものと位置づけた。
- 2 RPA開発優先業務を下記3点全てに該当するものとした。
 - (1) 集計・データ算出業務
 - (2) 集計途中の目視確認が不要なもの
 - (3) 集計・データ算出にかかる業務概算時間が月間60分を超えるもの
- 3 RPA統括部署を明確にし、運用開発をコントロールした。



得られた効果

- RPAの導入が、事務の生産性向上に大きく貢献。事務時間を削減した。
- 業務自動化の過程で、担当者のヒアリングを繰り返した結果、「ブラックボックス化していた業務」を紐解き、業務の見直し・効率化ができた。
- 事務に係る業務時間を削減し、効率化した時間と人材を、お客さま対応へ注力させることができ、人材の有効活用が可能となった。

RPAソフト導入により 実現したことを人材不足や 業務効率化に悩む 地元企業へ紹介

定年退職者が急増するタイミングもあり、RPAの導入を目的に属人化していた「業務の洗い出し」を加速できました。現在、導入から6年ほど経過しているため、パソコンのOSアップデート、閲覧ブラウザ種類の増加などによるメンテナンス問題も発生していますが、つどデジタル推進部職員が対応しています。地域金融機関の使命として、当金庫の事例を地元企業へ紹介し、経営の手助けになればと考えています。

DATA

遠州信用金庫

浜松市中央区中沢町に本店を置く信用金庫。通称「えんしん」。1950年創立。職員数はおよそ300人。主に静岡県西部地域と愛知県豊橋市にて営業している。



デジタル推進部、部長の藤田剛さん(右)とエキスパートスタッフの金子久美子さん(左)

- 製品ライセンスに投資したコスト
年間

約 **200** 万円

- 業務時間削減
年間

約 **1万4,000** 時間

- 省力化に使用したソフトウェア製品

WinActor

※「WinActor」はNTTアドバンステクノロジー株式会社の登録商標です

省力化事例の取材協力をお願いします。

取材申込先：浜松商工会議所 情報推進課 TEL.053-452-1110

